

第 378 回 昭和の森自然観察会

生き物たちの冬支度

川北紀子（千葉市）

日 時：2023 年 12 月 10 日（日） 10 時～12 時 天候：晴れ

参加者：20 名（大人 10 名 子ども 10 名）

担当指導員：小川洋子・川北紀子

12 月とはいえ、ぽかぽか陽気の「昭和の森」での観察会スタートです。まずはケヤキの窪みの黒い塊を観察しました。越冬中のヨコヅナサシガメです。参加者の中には初めて見る方もいて、もぞもぞと蠢く黒い影にびっくりされていました。続いて、樹皮にたくさんついてた紐状のものがヒミノガの幼虫の通路だと知って、皆さん不思議そうに観察をされていました。その後、落ち葉をめくっての「生き物探し」を実施。落ち葉の下や樹皮の窪みにはダンゴムシ、テントウムシ、カタツムリ、ミノムシ、ゴキブリ、カメムシなどがいました。足元にはこんなにも小さな生き物たちが冬越しの準備をしながら生きているのかと、皆さんとても感心している様子でした。広場に移動後は、モグラ塚の観察をしました。地面の盛り上がった土の下にある穴を探して、準備した細い竹棒を差し込みながら、モグラの穴がどこまでどんなふうに繋がっているのかドキドキしながらの観察です。子どもも大人も夢中になってモグラの穴を探していました。用意した「モグラクイズ」にも、皆さんとっても楽しんでいる様子でした。見過ごしてしまいがちな冬の生き物たちの姿を観察することができて、参加者たちが楽しそうにしていたのがとっても印象的でした。



落ち葉の下や樹皮の窪みには色々な生き物が冬越ししていました



参加者が夢中で取り組んだモグラ塚の探索